

# 山桜の里 戸赤

豆類引き受けます。

講習会  
栽培  
花豆

次回は 11月29日

午後1時30分  
戸赤集会所



実証圃場結果は裏面に連載

栽培者五名と普及部重松さん(株)おくや代表松崎さんから八名参加の講習会では、集まった約五十kgの花豆を選別された袋ごとに手に取り、粒の大きさ、色艶、乾燥状態などくわしく観察し、土壌、施肥、葉やツルの整理など今年の作業を振り返り作柄との関係を勉強しました。

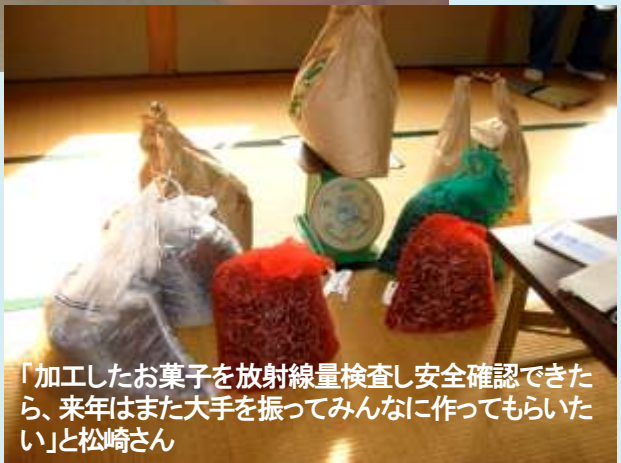


大きな粒を来年の種にしようとするため

今年最初の花豆集荷と講習会が十月二十日集会所で行われ、星照さんの実証圃場の結果や花豆の需要が高いことの情報を聞き、栽培者は来年への意欲につながっていました。

完成種  
集荷の中からおくやさん専用  
種子用大粒

おくやの松崎さんは「春に種を持ってきて今日収穫物に逢えてうれしい。今年は放射線の心配があるが、お菓子にするのが目標。できたお菓子の線量を測って安全性を確認後、来年は大手を振って作れるようにしたい。」と来年に対する期待感と来年の買い取り価格引き上げの意向を示しました。



「加工したお菓子を放射線量検査し安全確認できたら、来年はまた大手を振ってみんなに作ってもらいたい」と松崎さん

栽培者の一人がよその花豆を播いたところ、サヤの形が地元のものとは違い特大の実になったことから、来年の種子用にと松崎さんは買い取った一袋を戸赤に寄付しました。(この種子の希望者は区長さんに連絡してください。)

【木地の学習No.12】戸石小屋(現・下郷町)は戸石村の端郷の集落で、元禄4(1691)年木地師が定着し農民化した地である。南会津では早い時期に定着した所であるが、「……」とあるように新開地の場所では農業だけでは苦しかったのだろう。その後も木地業が主で農が従であった。山論の原因は「……」というもので朴木沢太郎左衛門が論所の地となって、伐り倒した木が差し押さえられそのままになっている。雪が降る前に椀開にしないと塗師へ送ることもできなくなり年貢の皆済もできないので、論所にしないで倒した木を引き取られるようにしてほしいと訴えた文書の下書きである。年不詳の文書であるが文政期のことだろうと推察する。また山論とは異なるが、入谷ヶ地土倉(現・会津高田町)の木地師が喰丸、両原両村の木を無断で伐った事が発覚し、詮証文を書いた文書もある。「……」と土倉小屋頭入谷ヶ地村名主等が平あやまりにあやまり今後一切このようなことはしないと一札入れている。普段山奥で人目に着かないためこのような事はたびたび行われていたことだろう。

(奥会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) <つづく>

人も自然も  
絵になる村  
戸赤



福島県南会津郡  
下郷町戸赤



12月9日(金)  
倉水公民館で  
総会予定

「風評被害のせい  
にばかりしておれ  
ない」と意見交換

「高倉川」王道ネットワークは十月十八日三ツ井生活改善センターで役員会を開き、十一月九日倉水公民館で総会を行うことを決め、風評被害で冷え込んでいる現状に甘んじていないで出来ることから足を揃えようと申し合わせ



野菜畑も被写体

### 被写体に絶好

戸赤の風景が写真愛好家の心をとらえ「しもごう農村風景フォトコンクール」に出品されました。取り入れを待つ野菜畑や、花豆乾燥の庭先が被写体となっています。作品は文化祭の前は役場のホールに展示されています。



花豆乾燥の庭先

役員会で交わされた各集落の活動状況などは次のとおりです。「倉水」五月連休に二日間水まつり実施。売上客足とも前年比やや減。十月二十八、二十九日秋祭り予定。町内よその直売所では、会津の野菜は安全ということ売り上げを伸ばしていることで頑張りたい。「大内」入込はいつもの半分くらい戻った感じ。県内の客が多い。大手観光会社のバスが見られるようになった。西日本に行ってみると百名中二名しか大内の名前を知っていないかった。

**元氣発信はここから**

秋祭りも予定  
知名度まだまだ低い  
カタクリに申し訳ない  
集まらないときさびしい  
不動滝の魅力を出したい新開

倉水  
大内  
三ツ井  
戸赤

## がんばる 木地工房

まだまだ宣伝が足りない。「三ツ井」今年カタクリまつりをやらなかった。カタクリと客に申し訳なかった。これから群生地内の草刈りをやる。一年休むと挽回するのは大変だ。「戸赤」やまざくら祭りを中止した。やはり人が集まらないときさびしく、村内ではだれ言うともなく花見の輪ができた。「新開」不動滝の魅力で活動に参加できればいいと思う。



小雨の中休憩するサイクリングツアー

「月曜日など一人も来ない日が多くなった」と言いながらも、いつもどおり玄關を開けている木地工房は、十月二十二日会津鉄道企画のサイクリングツアーが休憩。この日は首都圏からの木地愛好グループが予約で作品作りを楽しみむなど活気にあふれました。最近では町内小学校の体験授業も受け入れました。食事提供もできこの施設は特色を出して奮闘中です。



常連とも言えるくらいになった首都圏からの御一行様。この日はサラダボールの大物など完成

〔花豆の学習№11〕 **花豆栽培技術の実証 1はじめに** 戸赤地区では以前から花豆栽培が行われてきましたが、昨年北塩原村早稲沢地区を先進地視察した結果から、栽培技術面で改善すべき点が見つかりました。昨年の反省点として、①全体的に過繁茂気味なことから、生育前半の生育量を抑え、開花盛期以降の樹勢を高めるなど、生育量をコントロールした方がよい。②収穫打ち切り時点で、青いサヤが相当付いており、これが収穫できればかなり収量が見込める。ということでした。この反省点を踏まえ、栽培技術面での改善策を盛り込んだ花豆栽培技術実証圃を設置しました。

〈南会津農林事務所農業振興普及部資料から〉〈つづ〉